

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」

平成28年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成29年3月31日(金)発行 第 49 号

お世話になりました

転出のご挨拶

平成28年度末人事異動で、本校から4名の教職員が転出します。保護者の皆様には大変お世話になりました。本校で培った力を、新任地でも発揮してくれるものと思います。今後ともご指導、ご鞭撻お願いいたします。

「阿吽」

土井昭一郎
(退職)

「阿吽」の阿は「あ」、吽は「うん」といい、阿は口を開いて声を出し、吽は口を閉じて発音する。ある教えでは、この二文字を持って、宇宙万物の一切の発生と帰着を包括的に意味するものと説いています。一般的には、人生の始まりと終わり、「オギャー」と生まれて声を出し、「ウーン」と口を閉じて一生を全うする人の道につながってきます。神社やお寺の門前でよく見かける「狛犬」像や大寺の門の両側に立つ「仁王像」、口を開いた「阿形像」と口を閉じた「吽形像」がそれにあたります。西山中での短い期間ではありましたが、「よろしく願います」の開口で始まり、「お世話になりました」の閉口で終わる、まさに「阿吽」でありました。24の瞳の子ども達、山びこ学校を思い出させる保護者の皆さん、大変お世話になりました。心から厚く御礼と感謝を申し上げます。西山中は自然に恵まれ、素直で逞しい生徒に恵まれ、保護者の心に恵まれ、地域の人々の温かさに恵まれた、素晴らしいところでした。光輝く未来ある子ども達を守り育てる「西山力」を大いに発揮してほしいと祈っています。

結びに平成9年にナホトカ号重油流失事故がありました。その重油除去作業をしていたボランティアの人が書き残した言葉です。

『嫌なことを聞いたら、その「耳」を洗え、
嫌なものを見たら、その「瞳」を洗え、
卑しい思いが湧いたら、その「心」を洗え、
そして、その足は、泥足のままで、
泥足のままで、生きてゆけ』



「巡りめぐって」

上妻 浩一
(猪苗代町立猪苗代中学校へ)

2年間、たいへんお世話になりました。心より御礼申し上げます。

素直で、まじめ、何事にも一生懸命な生徒たちと、温かく、協力的で、親しみのある保護者の皆様とお付き合いさせていただき、幸せを感じたひとときでした。(あっという間でした)

初めて西山中学校を訪れたのは、平成16年に裏磐梯中学校のバドミントン顧問をしていたときの練習試合でした。体育館の風景と緑のジャージ、元気はつらつさがとても印象的だったのをよく覚えています。以後大会で見かけるたびに「少人数ながらがんばっているなあ、いいなあ、がんばれよ」と心の中で思っていました。

そんな思いもあり、西山中に赴任が決まったとき、これも巡りめぐった縁なのだと確信しました。実際、西山中学校で働かせていただき、内側から見ても、すばらしい生徒、保護者、地域、自然、文化に囲まれて、たいへん充実した2年間を過ごすことができました。

私は幼少期から、出身のいわき市を皮切りに、山形、秋田、仙台、再び山形、いわき、北海道岩見沢、東京、横浜、神奈川の藤沢と大和、白河、そして現在の猪苗代と、転校・転職・転勤を繰り返して参りました。暮らした先々では、馴染むにつれてそれぞれの良さを感じることができました。自然・文化もさることながら、人間関係で感じるが多かったです。西山も同様、この2年間の思い出は間違いなく忘れられないものになるでしょう。

西山中の次年度の発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。ノックバットを握りしめ、西の空へ野球のボールを打ち込みながら…。



「あっという間の一年間」

佐藤 美和
(三島町立三島中学校へ)

きれいなメロディーと歌声に感動した着任式からあっという間の一年間でした。西山中で過ごした一年間は、時間が経つのがとても早く一日があっという間に終わってしまいました。それほど充実した毎日を過ごせたのだなと感じます。



子ども達は、純粋で明るくなんにでもかんばって取り組む姿を見せてくれました。朝早くからの陸上練習、一緒に作った豚汁、一人ひとりが力を発揮し頑張った中体連、少人数な上に男子一人という中すばらしい歌声で賞をもらった合唱、全員がパフォーマーとなって活躍した文化祭、みんなで一つの作品を作った桐細工、感動的な卒業式・・・西山中での生活は、子ども達の様子を近くで見ることができました。日々成長していく姿を見ることができ、とてもうれしかったです。

保護者の皆様には、親子球技大会でふれあいとても楽しかったのを覚えています。慣れない事務のため失敗ばかりでご迷惑をおかけすみませんでした。どんな時も、優しく広い心で接していただいたおかげで、一年間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

西山中学校での一年間、みなさんの優しさに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

「西山の思い出」

船木 未知可
(柳津小・中学校へ)

月日が経つのは本当に早いもので、私が西山中学校に来てもう4年が経ちました。私が初めて西山に来た時は、平成25年度で、全校生徒17名と生徒の数にとっても驚きました。



しかし、少ない人数ながらも部活や文化祭、駅伝などに1人1人全力で取り組み、その人数の少なさを感じさせる事のない盛り上がりをいつも見せてくれていました。今も、そんな何事にも一生懸命に取り組む姿勢は脈々と西中生の間に受け継がれてき、昨年度からは地域を盛り上げるためにひし作りや桐細工作りなどもがんばっていましたね。そんな皆さんの姿には、いつも元気を分けてもらっていました。

来年度から、柳津の小・中学校に異動する事になりました。在職中は、生徒の皆さん、先生方、地域や保護者の皆さまにたくさんお世話になった事にとっても感謝しています。ありがとうございました。柳津は、近い距離なので、またお会いする事もあると思います。その時はぜひよろしくお願いします。



勤務の期間に長短はありますが、4人の先生方は紛れもなく本校教育に大きな足跡を残してくださいました。

教頭先生は長い教員生活にピリオドを打たれ、第2の人生を歩まれます。上妻先生は、地元の猪苗代中学校で地元教育に力を尽くしてくださいるものと期待しています。いつも明るい美和先生は、となりの三島中学校…。きっとこれからも明るい声が聞こえてくるのではないかと思います。未知可先生も母校戻り、司書として活躍されます。

4名の先生の今後の一層のご活躍を祈念します。

